



主な内容

- ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・ 会 長・・・2
- ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・ 学校長・・・3
- 教職員紹介・・・・・・・・・・・・・・ 4～9
- 球技大会・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 第52回誠祭・・・・・・・・・・・・・・ 10～11
- お知らせ・あともがき・・・・・・・・・・・・ 12



後列左から 小澤 勉 顧問 河野 登志夫 部会担当副会長
前列左から 西村 博和 一学年担当副会長 水野 清 三学年担当副会長
安藤 松男 会長 西間庭 準 二学年担当副会長

この度の東日本大震災は、過去に経験したことのない想像を絶する甚大な被害を各地にもたらしました。災害により犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。そして、一日でも早い復興を望んでおります。

さて、5月14日に行われました平成23年度の後援会定期総会に於いて、会長としてご指名を頂き、その重責を感じています。昭和35年4月に日本大学明誠高等学校が開校し、同時に後援会が発足され、昨年は50周年記念式典が盛大に行われました。この長き半世紀が歴代会長と会員の皆様のご尽力の賜物であり、今年は次の半世紀の第一歩という大事な1年目であります。

伝統と歴史ある日本大学明誠高等学校後援会を引き継いで、子供達の3年間の学校生活が充実し、有意義で活気のある高校生活が送れ、進学し社会人になっても明誠に来て良かったと云えるように、また明誠高校がますます発展するよう努めさせていただきます。

明誠の位置する上野原は、山梨県の東の玄関として都心から近く、校内からは日本一の富士山を望める風光明媚なところであり、地元の方々もとても温かい地域です。

今年4月に橋都校長先生が明誠高校の校長先生に就任されました。

学校側からは、校長先生、教頭先生、事務長、経理長先生を始め、諸先生方、学校関係職員の多くの方々のご支援とご協力で後援会が成り立ってお

ります。

後援会も橋都校長先生の生徒たちへの思いと全てがひとつになるチーム日大明誠の一員として、教育活動を支援していきます。

今年も恒例の誠祭では、各ご家庭から送られた品物をバザーで会員の皆様に販売して頂き、その売上金を子供達のために役立てます。また、今年はその一部を東日本大震災の義援金にと思っています。

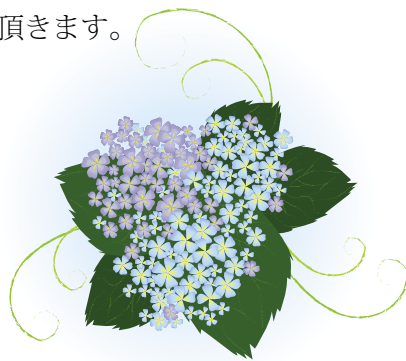
このバザーは、地元上野原の方々が毎年楽しみにしており、朝早くからバザーが開くのを待っています。とても賑わいを見せる行事の一つであり、地域住民、先生方、生徒が触れ合う場になっています。

今年の研修会は、親校である日本大学文理学部を訪問して学部関係者と交流し、チーム日大明誠をアピールしたいと思っています。

強歩大会では、役員と委員でコースの要所に先生方と一緒に誘導係として参加したり、千人分のトン汁を作り、ゴールした生徒達の激励、慰労の意味で振舞います。

後援会も、生徒の行事を支えながら、一緒に明るく元気に楽しく進めて行きたいと思います。

会員の皆様のご健康をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



平成23年度日本大学明誠高等学校 後援会総会開催

5月14日に本校多目的ホールに於いて、上記総会が行われました。当日は多くの保護者の皆様の参加により、滞りなく議事も進行する事が出来ました。



3月11日に発生した東日本大震災は、千年に一度といわれている大災害となり、津波の恐ろしさは、想像を絶するものでありました。犠牲になられた方々にご冥福をお祈り申し上げます。また、被災されました方々、ご家族、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

新入生351名を迎え、平成23年度がスタートいたしました。私は、大山前校長先生が定年でご退職され、その後任として、静岡県にありますが、本校発展のため専心努力する所存でございます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

先日後援会総会が行われました折、広報部の方から「広報明誠」の原稿をお願いされました。ここに自己紹介を兼ねて、教員採用のころの話を、記憶をたどりながら書かせていただきます。

私は昭和48年に理工学部併設校である日本大学習志野高校(前身は日本大学工業高校といい昭和49年に改名しました)に奉職いたしました。当時の世相は第1次オイルショックが発生し、トイレトペーパーが店頭から消え、スーパーマーケットには長い行列ができました。またカラオケが誕生したときでもあり、「せんせい」・「神田川」などの曲が流行するというそんな時代でした。

奉職してまもなく新採用教員の研修会が行われました。研修場所は、今は取り壊されてしまいましたが、現在の法学部(JR水道橋駅)があるところでした。そこに日本大学本部があり、赤レンガ造りの重厚な建物で、威風堂々とした姿は、まさに学問の殿堂という感じがしました。この場所に50名ほどの新採用教員が集まり研修会が行われました。その中で講演があり、講師の先生は、当時理工学部長で、航空工学の権威でもありました木村秀政教授でした。先生は、戦後日本で初めての国産飛行機「YS-11」の製作に携わった方であり、皆様ご存知の毎年夏、琵琶湖で行われる「鳥人間コンテスト選手権大会」で初代の解説者として、活躍なさった方でもあります。

講演の内容は、日大理工学部の人力飛行機「リネット号」が日本人初の人力飛行に成功したときの話でした。現在の航空宇宙工学科はまだ存在せず、機械工学科の中で「卒業研究」として「人力飛行機の開発」に着手したそうです。昭和30年代は飛行機的设计や飛行実験を

大学で体験させることは不可能であり、真理を追究する大学としては、「もの作り」はふさわしくないとする雰囲気があったようです。そのような中、いち早く4年生に企画・材料調達・設計・製作・飛行実験等の分担をさせ、毎年人力飛行機の研究や実験を行い、学生たちは卒業していったそうです。卒業研究として毎年4月に一から研究をはじめたそうですが、そこには代々の研究したことが暗黙のうちに引きつがれていったものと推察いたします。この卒業研究は、全員が設計や製作に携わったわけではありません。先生は、学生たちにそれぞれの得意分野を考えさせ、その能力に合わせて、企画や材料調達の渉外に秀でている者・設計が得意な者・製作が得意な者・体力があり運動神経が優れ長時間プロペラを回せる者等に分けたそうです。機械工学の学生ですから誰でも設計や製作に携わりたいところを、ひとつの目標に向かうためそれぞれが持っているもともと得意とする分野に分かれて、力を結集したそうです。そして、昭和41年の2月にその実験の成功のときが訪れました。

朝靄の中、学生たちは製作した機体の両側に陣取り、機体と一緒に走りだしました。滑走路を走っていた機体が突然フワッと1メートル程浮き上がってそのまま滑空したそうです。たった1メートル浮き上がっての滑空、これが日本人初の人力飛行に成功したときでした。しかし、何年もかかって多くの卒業生が研究してきた結果です。皆で力を合わせての結果です。学生たちはお互いに肩をたたきあい、そして涙を流しての喜びようはこの上なかったそうです。その歴史があって近年の「鳥人間コンテスト」での日大理工学部の数々の優勝は皆様ご存知のとおりであります。講演の最後にあたって、木村秀政先生は、ひとつの目標に向かってことを成すとき、一人の力は微々たるものですが、チームを組んで頑張れば・努力すれば必ず成功するときに訪れます。これから日本大学の各付属高校で教壇に立たれる先生方、それぞれの学校でチームを組んで学校を盛り上げてくださると激励されました。40年ほど前の話ですが、なぜか今でも忘れることがありません。

さて、本校は昨年創設50周年を迎え、今年からは100周年に向けて一歩を踏み出しました。全校生徒・教職員・後援会の皆様・二万人の同窓生の皆様とともに、『チーム日大明誠』としてチームを組み、本校が益々発展し、隆盛を極めるようにと願っております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。ごあいさついたします。

球技大会

5月6日





壁画



開会式



屋外ステージ



模擬店

第52回 誠 祭

6月25日・26日



体育館ステージ・チア



吹奏楽部ミニコンサート



女装・男装コンテスト



ねづっち来たる!!



日本大学学部コーナー



日本大学理工学部物理学科



体育部ユニホーム展示



バザー



入場門



退場門

誠祭、バザー協力の御礼

6月25日、26日の誠祭での「バザー・お茶処」の開催において、後援会会員、教職員の皆様方にはバザー用品の提供及びお手伝いのご協力を賜り有難うございました。

バザー実行委員長 西間庭 準



謝恩会お知らせ

毎年、卒業式終了後に後援会主催においてお世話になった先生方へ感謝の気持ちを込め、謝恩会を開催しております。

本年度も例年通り行う予定ですので、3学年の保護者の皆様方のご協力、ご参加をお願い致します。

後援会 副会長 水野 清

後援会より軽トラックを
贈らせていただきました。



～あとかき～

今年度は学校行事の様子など皆様に興味をもって読んでいただけるよう心がけてまいりたいと思います。(広報部員一同)

